

# 人々の「つながり」から「心」のつながりへ ～大和川定期預金を通じた地域の「心」の活性化に向けて～

大和信用金庫 総合企画部 副部長 新 元 秀

## I. 信用金庫の共通のDNA

地域金融機関である私たち信用金庫は CSR が叫ばれる以前から、地域社会に対しての社会的責任として地域への貢献を果たしてきており、その意識は今後も何ら変わることはありません。そのような中で、地域に根差した金融機関であるからこそ、その地域の課題解決のために汗を流し、アイデアを出し、解決のための啓発活動を行っていくことは当然のことであり、これこそ地域金融機関の存在意義の発揮でもあると思います。

これは全国の信用金庫共通の考えであり、全国信用金庫の役職員全員が「より良い地域作りや地域の方々が幸せを感じられるような街作りに貢献したい」という共通の DNA を持って活動しているといっても過言ではないと思います。

## II. 「大和川定期預金」誕生の経緯

当金庫でも、従来から各営業店において、それぞれ地域に即した地域貢献活動を行ってきましたが、平成 16 年に CSR 検討委員会を設置し、金庫全体での地域貢献活動を一体的に推進すべく検討を進めてきました。その中で CSR を清掃活動ばかりではなく、本業である金融商品と環境問題を結び付けられないかというところと議論を行いました。

地球温暖化問題のような全世界的な課題よりも、地域住民に関心を持ってもらえ、課題解決のために意識を高め合い、みんなで協力していけるような取り



(大和信用金庫 新さん)

組みとして着目したのが、全国の一級河川の中で水質の悪さでワーストを争う大和川の水質改善です。

折しも、商品開発期間中に「大和川生活排水対策社会実験」という大和川の水質悪化要因の 8 割ともいわれている生活排水の抑制を地域に呼び掛けるという社会実験に参加したのをきっかけに、「奈良県“暮らし”と“環境”フェア」のパネリストとして参加することとなりました。

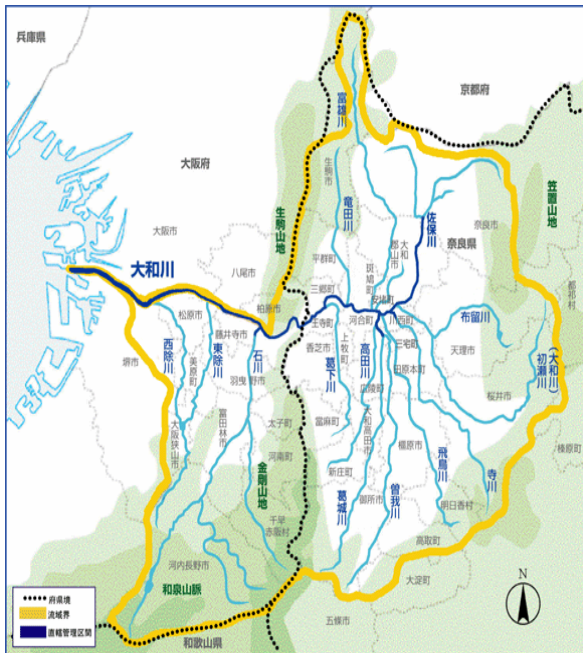


(大和川生活排水対策社会実験)

その際、未だ企画中であり、機関決裁も取っていないこの預金商品の取り扱い開始を、来場者の皆さんの前で発表してしまいました。いかにもフライングでしたが、後は勢いでなんとか商品化まで持っていきました。



\* 茶色の部分↑が大和川流域



\* 上の地図の茶色の部分が、黄線で囲んだ所。青線が大和川と支流。大阪湾に流れ込んでいます。

### Ⅲ. 「大和川定期預金」の反響

商品内容は、大和川の水質の改善度合いに応じて定期預金の金利を上乗せするという定期預金であり、河川の水質を表す BOD 値の年平均値における前年対比での改善度合いを指標としました。商品名は当金庫名にも通じる「大和川定期預金」としました。

事前の職員の評価も良く、何より発売後の各マスコミからの反応・取材には目を見張るものがありました。新聞・テレビ・ラジオとあらゆる媒体で紹介いただいた上に、「地球環境大賞〈フジサンケイビジネスアイ賞〉」「日本水大賞〈奨励賞〉」「信用金庫社会貢献賞〈特別賞〉」を始めとした環境各賞の受賞もあり、これまでに 8 つの賞をいただいています。

これにより、地域の方々にも当金庫が環境に配慮した金融機関であるとの認識が広まったことと、こういった評価が何より職員自身の喜びでもあり、各自の環境意識が高まることともなりました。

おかげをもって、平成 18 年の取扱開始後、年々大和川の水質改善が進んできており、測定史上最良の水質の記録を更新し、平成 20 年には全国ワーストワンの汚名を拭うことができました。定期預金についても、過去 4 回の取り扱いのうち、3 回において金利の上乗せが実現でき、お客さまにも大いに喜んでいただいています。

### Ⅳ. 大和川の水質改善に向けた取り組み

水質に加えて日々憂慮しているのがゴミの問題です。いくら水質が改善してきても、ゴミが溢れる川では誰も近づきません。ましてや上流域である奈良県側のゴミが下流域の大阪府や、海を越えて淡路島沿岸にも流れ着いているとすれば、上流の責任を感じざるを得ません。

これこそ住民のモラルが問われる問題です。“川は人の心を映す鏡である。”



(大和川クリーンキャンペーン)

との言葉があるように、川を見ればその地域性が分かると言われています。当金庫では、行政の実施する河川の清掃活動への協力はもちろんのこと、金庫独自の清掃活動も行っています。多くの方が実際に河川のゴミ拾いを体験して初めて環境保護に対する意識が芽生えるのではないかと考えます。

また、次世代への啓発活動も重要です。当金庫では、「大和川定期預金」のお預け入れ残高の 0.01% を金庫が拠出し、加えて役職員の自由意志による出捐分を合算し「大和川基金」を設立しています。この基金では、大和川の再生・水環境の改善に向けた取り組みに対して資金を拠出しています。

例えば、地域の NPO 団体との協働により「ふるさと大和川源流体験ツアー」を開催し、子どもたちが大和川の源流を体験することによって、自然環境の大切さを学んでもらっています。



(ふるさと大和川源流体験ツアー)



(大和川ポスターコンクール)

また、「大和川ポスターコンクール」では、同じく子どもたちに啓発用のポスターを描いてもらい、優秀な作品を表彰しました。

地域社会とのネットワークも重要です。奈良と大阪、企業と市民、官や学、NPO 等様々な活動主体を一大ネットワークとすべく、平成 20 年に設立された「大和川市民ネットワーク」には設立当初から参画し、現在、副代表として活動しているほか、行政中心の組織である「大和川清流復活ネットワーク」でも設立段階から協働しています。

環境問題は、何よりも一人ひとりの意識付けが重要です。これらの取り組みは、大和川という地元を流れる河川の水質改善を地域住民に意識していただき、地域の環境保全を住民みんなで図っていくという、地域に根差した金融機関ならではの取り組みであるといえます。



(奈良県環境フェア・せんとくん登場)

### III.まとめ

今後も、当金庫の CSR 活動のメインとして大和川を位置付け、地域住民との連携を深め、役職員の意識向上により大和川の水環境の改善に向けて様々な取り組みを進めていきます。地域住民が意識を変え、大和川の水環境改善に向けて一人でも多くの方が行動を起こせば、近

い将来奇跡が起こるかもしれないと信じています。この取り組みにより、失われたふるさとの自然環境へ目を向ける「気付き」となり、同時に失われた「心」を取り戻してほしいと思います。それに伴い、地域での様々な人の「つながり」が「心」のつながりに拡大し、地域の「心」の活性化につながればと願います。

平成 20 年「第 2 回市民が選ぶ CSR 大賞」に、当金庫の「大和川の水質改善に向けた取り組み」がノミネートされたときの応援メッセージの一部を紹介します。当金庫の取り組みがこれほどの共感と支持を得ているということに感動するとともに、今後の活動への大きな励みになりました（今でも読み返すと胸にくるものがあります）。

当金庫へのメッセージ
このような経営理念をおもちになっている企業にさらなる発展を期待しております。（10代・女性）
最近どこの会社も CSR 等の活動が活発になっていますが、形だけのものもまだ多い中、信金で出来ることを考え、具体的に地域の環境をよくする取り組みをされているのが素晴らしいと思います。（20代・女性）
地域の為の信用金庫であると同時に全てに優しい信用金庫になってください。応援しています。（20代・女性）
大和川への愛が伝わってきました。他社のちょっと具体性にかけるメッセージに比べるとあまりにも身近、だけど本当に実行して結果をだしているのがよく分かります。これからも頑張ってください。（20代・男性）
地元に着した金融機関だからこそできることだと思います。何かを継続していくにはいろいろな工夫が必要だと思いますが、この取り組みは他金融機関にもいい手本となるのではないのでしょうか。これからもこの取り組みが続いていきますように。（30代・女性）
身近な川を綺麗に！という意気込みがすがすがしい。あれこれとえらそうな言葉よりも胸にグッときました。（30代・男性）
南大阪に住む者として、大和川は正直あまり触れて欲しくないものという意識が心の底にあったのですが、完全に覆されました。私も、自分の住む地域に自信を持って、出来る事に最善を尽くしていこうと思いました。（30代・男性）
とてもピュアな感じがして、感動しました。（40代・男性）
大和川の清掃化はもとより地域振興や活性化を目指して地域のボランティア団体や NPO 法人、そして地域住民とともに協働で地道な活動をするを祈っております。また小粒でもピリリと辛いユニークな CSR を願っております。（60代・男性）
環境の取り組みは、大手企業などがマスコミを利用しての環境活動の大切さを訴えますが、どこか他人事のように思われてしまいますが、地域の中小企業の取り組みは身近なところで展開されるため、より説得性を持つように感じます。信用金庫のような地元密着の金融機関が、奈良県民にとっての母なる川「大和川」の浄化に取り組むことは、とても共感しています。私も、その志に賛同して、定期預金をさせていただきました。（60代・男性）
信金さんは、地域の宝、自然環境の取り組み、頑張れ、頑張れ。（60代・男性）